

“ゆとり君”と働くために覚悟しておくこと(第4回)

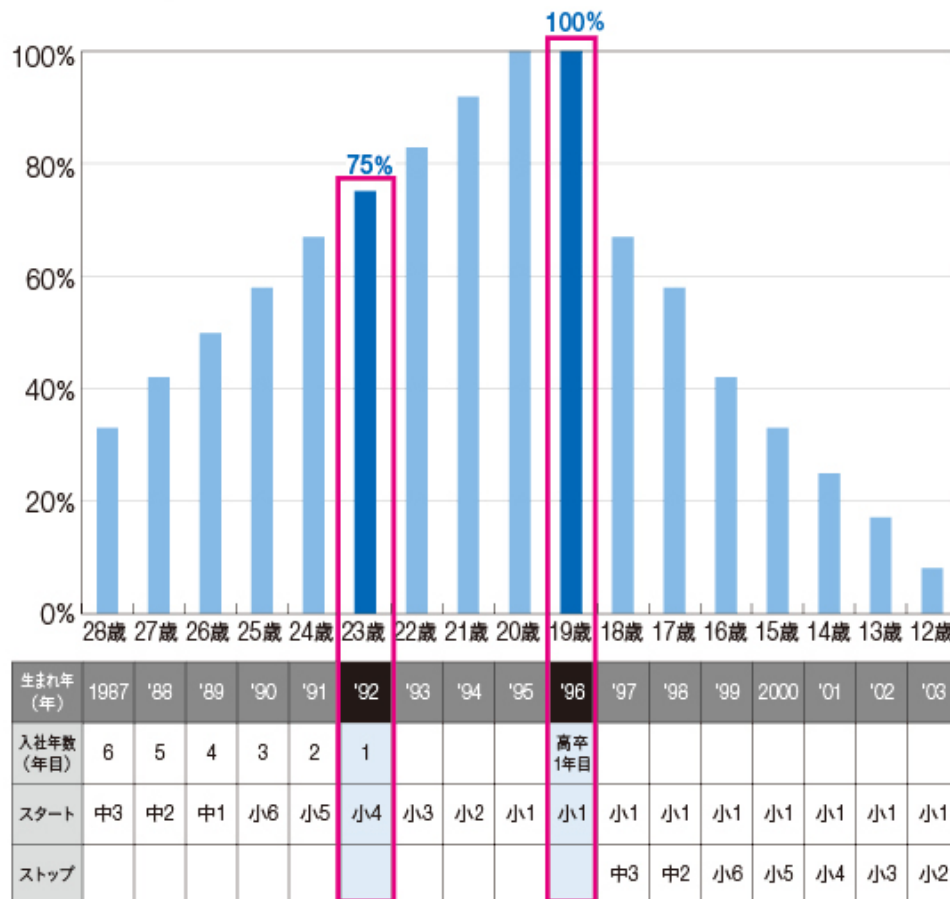
「純粋ゆとり世代」がこれから社会に入ってくる！

2015.08.19

連載2回目に「ゆとり世代とは1987年度以降生まれの若者のことを指す」と説明しました。6年ほど前に「ゆとり世代が社会に出てくる！」と、マスコミなどでもずいぶん話題になったと記憶しています。

1987年度生まれの若者が、中学3年生のときにゆとり教育は始まりました。つまり、彼らは中学2年生まではゆとり教育を受けていないのです。95年度生まれが、小学校1年生から「ゆとり教育だけを受けて育った世代」になります。「純粋ゆとり世代」と言ってもいいでしょう。

ゆとり教育の実施時期



■ 小学校は2002年度から開始、2011年度より廃止。

■ 中学校は2002年度から開始、2012年度より廃止。

■ 高校は2003年度から開始、2013年度より廃止。

ただし、それぞれの時点で2,3年生の場合はそれまでの教育を継続。

※私立の小学校・中学校・高校の場合は若干異なります

彼らが大学を卒業して社会に出てくるのは、2年後になります。すでに社会人になっていて、さまざまな問題を起こしているゆとり世代は、厳密に言えばその前の「少子化世代」の影響も濃く、ゆとり教育の弊害が、まだまだ少ない世代です。これか

らどんどん、ゆとり教育の影響の濃くなっていく世代が、社会に出てくることになります。

95年度生まれの若者は、2015年時点で大学2年生。アルバイトが当たり前になり、社会との接点が増え始める世代です。彼らが社会と関わりを持ち、どのような問題を起こしているか。その一例をご紹介します。

皆さんもよく知っているある大手小売店が、求人誌に「普通の人募集」というタイトルでアルバイトの求人広告を出しました。そこに応募してきた人たちの、実際にあった仰天話です。

- ・履歴書が名前以外白紙
- ・志望動機欄に「暇つぶし」と記入
- ・履歴書の証明写真がプリクラで撮ったもの
- ・面接なのにモヒカン頭で来た
- ・面接に2時間遅刻して、第一声が「ちいっす」

いかがでしょうか？

すべて採用現場で起きている事実です。ゆとり世代の学生の常識やモラルはここまで低下しているのです。

「いい人材がいない」「いい学生がいない」と嘆くのは簡単です。しかし、現実はそのようなものではありません。いい人材がいないのではなく、社会に適した、いい人材を学校で育てていないのです。ゆとり世代である彼らに責任はありません。そのように育てた教育制度の方に責任があります。

「ゆとり教育は終わった」という幻想… 続きを読む